

# 三田メディアセンターにおける 慶應・福澤関連コーナーの整理について

そのはら まり  
園原 麻里  
(三田メディアセンター)

## 1 背景と目的

三田メディアセンターレファレンス担当（以下、「レファレンス担当」とする）では、2019年6月に慶應義塾図書館（以下「図書館」とする）1階の階段周り書架1/2ほどのスペースに、約240タイトルの資料を集めた慶應・福澤関連コーナー（以下「本コーナー」とする）を設置した。

レファレンス担当で受け付ける調査質問は、通常慶應義塾在籍者を対象としているが、慶應・福澤論吉関連の質問は、例外的に一般からの問い合わせにも対応している。そのため、質問は必ずしも研究目的に限らず多岐にわたるのが特徴である。最近の質問例としては以下のようなものがある。

- (1) 慶應関係者の生没年を知りたい
- (2) 慶應の応援歌の楽譜を探している
- (3) 郷土と福澤論吉の関連を示す典拠を知りたい
- (4) 三田キャンパスの建築資材の産地を知りたい

過去の関連調査の蓄積やOJTで得た知識をもとに、質問に対応し、人事異動などで担当者が変わることがあっても質を維持するよう努めている。しかしながら、関連する資料群が膨大であるため、経験が浅いスタッフは調査に時間を費やすことがあった。慶應・福澤関連の調査資料の全体像をコンパクトに把握でき、調査を自在に行えるような資料のまとめがあれば、利用者もスタッフも必要な情報により早く辿りつけるように思われた。加えて、慶應・福澤関係のアーカイブ資料を収集したいといったスタッフの意見もあり、両者の要望をかなえる形で、図書館利用者の誰もが手軽に関連資料を見つけられる慶應・福澤関連資料コーナーの構築を目指すことにした。

整理を実施する前の関連資料群は、レファレンス書架の一隅に未整理資料として置かれたもの、主題別に整理されたもの、NDC028の書架に目録として整理されたもの、と多様な状況であった。複本がいくつかの箇所に分かれて置かれたものもあったが、

必ずしも重要度と比例しているわけではなく、他方で、KOSMOSに未登録のまま保管された重要度の高い資料もあった。

一般資料の中には、書庫狭隘化のため山中資料センターに移管され、リクエストに応じて取り寄せ手配を行うことで利用者へ供する資料もあれば、福澤論吉著作資料や紀要を中心に、メディアセンターと福澤研究センタースタッフの努力のもと強力でデジタル化が推進された資料群もあった<sup>1) 2)</sup>。

慶應・福澤関連資料群（以下「関連資料」とする）としてある程度整理されたコレクションは、図書館地下1階の「慶應コーナー」であった。ここには一般資料の中から選定された慶應関連資料や全集類、慶應義塾創立150年記念で出版された資料類が収集されていた。

同じ関連資料であるものの、来館せずとも閲覧できるデジタル資料もあれば、取り寄せ手続きをしなくては閲覧できない資料もある、といった状況は、本コーナーの配架対象資料を選定する際に考慮すべき点であった。

## 2 収書方針

本コーナー設置にあたり、対象資料の収書基準を策定するためにKOSMOSの書誌データから候補資料を抽出し、レファレンス担当全員で上述の既存資料群と照合しながら、収書の方向性を検討した。その結果、本コーナーに収書する資料は、図書館3、4階で保存する慶應関係の雑誌・紀要類は対象外とし、主に図書を対象とすることを前提として、以下のような収書基準を作成した。

### (1) 慶應義塾関係資料

慶應義塾の歴史や建物の沿革について網羅的に編纂した資料。各学部や一部局の歴史資料は基本的には受け入れないが、問い合わせが多い資料（体育会編纂資料など）は選択的に収集する。

## (2) 福澤諭吉関係資料

福澤諭吉の代表的な著作集・全集や福澤諭吉関連目録。ただし、慶應義塾大学メディアセンターデジタルコレクションに所収された単行著作は対象外。

## (3) 三田メディアセンター関連資料

三田メディアセンターの図書館史等

## (4) 蔵書目録

## (5) 貴重書展示会展示目録

(6) 文献シリーズ<sup>3)</sup>

## (7) その他：三田メディアセンターが関係した外部展示目録など

上記の取書基準に適した資料のうち、中心的な資料の多くは、地下1階の「慶應コーナー」と重複したため、本コーナーに統合することにした。

### 3 配架から公開まで

約240タイトルという分量と、資料の性格を考慮して、レファレンス書架の中央に位置する百科事典を一部移動させ、スペースを確保した。配置コードは、既存の「1階階段周り」を使用した。

配架資料の請求記号は受入順に付与することも考えたが、今後、新たに古い年代の資料が見つかった際にも、内容ごとに自然な排列を維持できるように体系とした。具体的には、冒頭に共通でRA@090（洋書はRB@090）を付し、大分類の慶應・三田メディアセンター・福澤を示す頭文字と内容やシリーズ名ごとの3桁の数字を基本として、発行年順に配列できる形とした。

当館の館内展示目録も公開することにした。様々な形態のパンフレット類は製本するまでに時間を要したが、受け入れ作業から約半年で資料をすべて配架することができた。レファレンス書架に未整理で置かれていた資料等のうち、今回収集対象外としたものの一部は保存庫に保管し、一通りの整理が完了した。資料は配架が済んだものから、順次公開した。慶應・福澤関連の問い合わせの都度、本コーナーを紹介したためか、すぐに利用が定着したように感じる。図書館旧館の耐震工事終了後、旧館に関心を持った利用者に必要な資料を本コーナーからスムーズに紹介できた際、より迅速に必要な情報を伝えられたことに喜びを感じた。

### 4 今後の展望

本コーナーは、資料の探しやすさといった側面から、関連資料を探す利用者へのサービス改善に貢献すると思われる。今後は、関連資料の存在をまだ知らない人々へのPRも考えていきたい。フロア改修の一環として、2019年9月に本コーナーの隣にPCエリアが設置された。パソコンや新しい仕器に魅力を感じた学生の新たな動線ができると予想されるため、関連資料をあまり知らない学生にも本コーナー資料をはじめとする各種情報源の紹介掲示を作成した。慶應義塾大学デジタルコレクションや雑誌の紹介の他、レファレンス担当で作成している文献リストや調べ方ガイド<sup>4)</sup>をQRコード付きで案内している。文献リストでは、福澤諭吉協会の許可を得て『福澤諭吉年鑑』の「研究文献案内」で取り上げられた福澤研究を紹介している。福澤諭吉協会から2010年以降のデータ転用を許可いただき、効率的な入力作業の準備が整ったところである。また、『福澤諭吉事典』の「著作単行書一覧」や『福澤諭吉全集』の「著作索引」に掲載された没後刊行物、もしくは発言集の一覧も公開している。本コーナーを含む各種情報源が、慶應義塾大学や福澤諭吉について知る便利な手がかりになれば幸いである。



#### 参考文献

- 1) 原田奈都子. よみがえる福澤諭吉 ―デジタルで読む福澤諭吉―. MediaNet. 2008, no.15, p.36-37.
- 2) 杉山伸也. 慶應義塾とグーグル社のライブラリ・プロジェクトでの提携について. MediaNet. 2007, no.14, p.29-30.
- 3) 筒井利子. 文献シリーズの復刊にあたって. MediaNet. 2013, no.20, p.52-53.
- 4) 三田メディアセンター. “慶應義塾・福澤諭吉について調べる”.  
<http://libguides.lib.keio.ac.jp/keio>, (参照 2019-06-05).